

「宮代町の交通・鉄道」

宮代町教育委員会 郷土資料館 河井伸一

1 宮代町について

宮代町は、関東平野の中央部にあり埼玉県 of 東北部に位置する。東西 2km、南北 8 km を測り、北西から南東にかけて細長い形をしており、面積 15.95 平方キロメートルを測る。東武伊勢崎線が町を縦断しているという好条件のもと、都心へ通勤するベッドタウンとして昭和 40 年代以降人口が急増し、現在の人口は人口約 3 万 3 千人を数えます。駅は北側から和戸駅、東武動物公園（旧杉戸駅）、姫宮駅がある。

町の東側には、北葛飾郡杉戸町、南側には春日部市、西側には南埼玉郡白岡町、北側には久喜市に接しており、東武鉄道が町を縦断している。町域を画するように北から東そして南へと、かつて利根川の本流であった古利根川が流れている。

宮代町は、昭和 30 年 7 月 20 日、百間村と須賀村が合併してできた町である。町の名は、百間村の総鎮守姫宮神社の「宮」と、須賀村の鎮守である身代神社の「代」をそれぞれとって現町名の一部とし出来た。

2 宮代町の水上交通

1) 御年貢米津出し

笠原沼百間中島村新田（慶応 3 年）・・・矢畑河岸（杉戸町）

笠原沼百間西村新田（慶応 3 年）・・・矢畑河岸（杉戸町）

笠原沼下野田村新田（寛延 2 年）・・・権現堂河岸（幸手市）

笠原沼須賀村新田（寛延 2 年）・・・権現堂河岸

百間中島村・・・矢畑河岸

和戸村（寛政 12 年）・・・権現堂河岸

西条原村・・・関宿河岸（野田市）

2) 河岸場

和戸橋河岸

明治 3 年に河岸場として浦和県に認められた。河岸問屋は組頭の野沢勘兵衛。昭和 3 年の写真が残る。和戸橋と共に船着場や船が写っている。

古利根川の水運

昭和 9 年頃書かれた杉戸町の郷土史家海老原三郎平著書「杉戸諸料」には、明治時代に河原橋と清地橋の河岸場を隔日に出発し、松伏溜井まで行く水運があったと記

載される。この水運の発展により、日光街道の陸上輸送が減少し、杉戸宿の衰退が顕著になるという。

3 宮代町の陸上交通

1) 道路

- ・ 鎌倉街道

町内西条原、東条原、須賀を通る。事実上、日光御成道が成立するまで江戸時代初期まで主要な街道。発掘調査では 15 世紀後半から 17 世紀代の遺物が出土。

- ・ 日光御成道

江戸時代前期の成立。町内西条原、国納、和戸を通る。和戸には間の宿のような集落があった。

- ・ 久喜道・粕壁道

現在の県道春日部久喜線。

- ・ 杉戸宿御伝馬道・慈恩寺道・岩槻道

現在の県道蓮田杉戸線。杉戸宿へ向かう道路。

2) 鉄道

- ・ 東武鉄道

杉戸駅

明治 32 年 8 月 27 日 東武伊勢崎線開業

明治 33 年 2 月 貨物取り扱い開始

大正 9 年 12 月 26 日 杉戸・久喜間複線化

昭和 4 年 4 月 1 日 東武日光線開業

昭和 18 年 12 月 1 日 東武鉄道杉戸工場の前身を設置

昭和 48 年 9 月 1 日 杉戸駅西口完成

昭和 56 年 3 月 16 日 東武動物公園駅に改称、営団地下鉄日比谷線乗り入れ

昭和 56 年 貨物取り扱い廃止

平成 15 年 3 月 19 日 営団地下鉄半蔵門線乗り入れ

平成 16 年 3 月 31 日 杉戸工場廃止

和戸駅

明治 32 年 12 月 20 日 和戸駅設置

大正 3 年 10 月 和戸駅拡張。引込み線の設置。本格的貨物取り扱い開始

大正 8 年 7 月 27 日 和戸駅移転

昭和 34 年 貨物取り扱い廃止

姫宮駅

昭和 2 年 9 月開業

平成 13 年 3 月 13 日 橋上駅舎化

- ・ 幻の鉄道

中央軽便鉄道（御成街道ルート）明治 43 年構想

3) バス

- ・ 幸手駅から岩槻を経由し大宮駅東口行きのバス。昭和 45 年頃まで運行。のち、岩槻までとなり、最後は岡泉までになったという。
- ・ 杉戸駅から蓮田駅へ行くバス。農協から赤松浅間、太田新井、鹿室を経るそうです。蓮田の長谷川家が経営していた。（宮代町通史編）
- ・ 杉戸駅から杉戸・関宿・宝珠花等へ行く便は宮代町に停留所がないため省略

4) 乗合馬車

和戸駅から幸手への乗合馬車が大正末期から昭和初期にあった。当時、東武日光線がまだなかったため、和戸駅から幸手へ馬車でいった。馬宿をしていた家もあった。

4 荷物輸送

江戸時代の荷物輸送において、現代の宮代町民との係わりは年貢米を届けること、廻状や通達等の文書の輸送、商品や届け物の輸送等であった。年貢米については権現堂河岸等を利用するが、廻状や通達等の文書の輸送、商品や届け物の輸送等は杉戸宿を利用していた。

江戸時代末期頃までは、荷物の輸送は宿場の問屋場や飛脚を利用した陸上交通が主流であったが、明治時代になると和戸橋の河岸場が設置される等水運が発達し、陸上交通の宿場は衰退したようである。その後、明治 32 年 8 月に杉戸駅が開設され、荷物輸送の主軸は鉄道輸送へと変わったと推定される。

1) 運送店

馬車での輸送

①杉戸駅

埼玉県営業便覧（明治 35 年）

島村運送店 四角に上

弁天様略記（大正 12 年頃）

斎藤運送店 四角に上

岩崎運送店 ヤマサ

宮代町史民俗編（昭和初期～10 年頃）

2 つの運送店。弁天様略記と同じ地点

杉戸町史民俗編（昭和 20 年代初期以前）

岩崎家 屋号ヤマサ

「鉄道の貨車から降ろされる荷を一手にさばき、これを四輪の馬車に積んで運んでいた。駅東口には、荷を一時保管するための大型倉庫も備えられていたという。荷は、米・肥料・砂糖・塩などが中心であった。」（杉戸町史民俗編より）

②和戸駅

- ・ 鈴木商店 かつて運送屋であった。
- ・ そうめん屋（M家） 大正末期から昭和初期にかけて馬宿。和戸駅から幸手まで乗合馬車が運行されていた。
- ・ 和戸駅で貨物を積み替え、馬車で日光御成道を使い幸手へ運んだという。
- ・ 明治44年の鉄道貨物図表帳には、和戸駅「此駅貨物不扱」とある。
- ・ 昭和5年では和戸駅は貨物取り扱い駅である。（国勢調査）
- ・ 大正3年の和戸駅拡張、大正8年の和戸駅移転と関係があるのだろう。

5 交通・鉄道関係の資料

- ・ 武州鉄道が記載された水路図
- ・ 明治32年、明治43年～大正8年、昭和7年の時刻表（運賃記載）
- ・ 大正3年和戸停車場拡張関係資料
- ・ 明治33年鉄道線路及賃金里程表（全国鉄道路線）



資料2 和戸橋河岸

翌 明治四年九月 河岸場冥加金上納願
 (田口家文書)
 乍恐以書付奉願上候
 第八区埼玉郡和戸村組頭野沢勘兵衛奉申上候、私儀当
 村地内字和戸橋へ河岸場取建舟積問屋稼いたし、兼て
 志願罷在候に付、其段追々奉願上候処御取調之上去年
 十月廿三日御聞濟相成御請書奉差上置候、然ル処当未
 御年貢米津出之分積下方にも差向候得共、未タ右冥加
 金御上納仕可稼方無之間、早々右冥加金奉上納稼方仕
 度奉存候間何卒以、御仁恤右之段御聞濟被成下度奉願
 上候、以上
 未九月八日
 浦和県
 御役所
 第八区和戸村
 組頭野沢勘兵衛

資料1



図1 明治前期の道

表2 明治前期の道筋

道名	ルート	巾
① 久喜道・粕壁道	下早見村～和戸村～須賀村(～杉戸宿)～百間村～内牧村	2間
② 杉戸宿御伝馬道	清地村～百間村～太田新井村(慈恩寺道・岩槻道)	2間
③ 岩槻道(村道)	杉戸宿～須賀村(一部久喜道)～東桑原村～西桑原村～高岩村	2間
④ 日光御成道	下野田村～西桑原村～国納村・和戸村～高野村	4間
⑤ (幸手道別路)	和戸村～吉羽村	2間
⑥ 村道	爪田ヶ谷村～東桑原村～須賀村	2間

資料3 宮代町の道



資料3 杉戸工場 機関車



資料4 昭和7年の杉戸駅



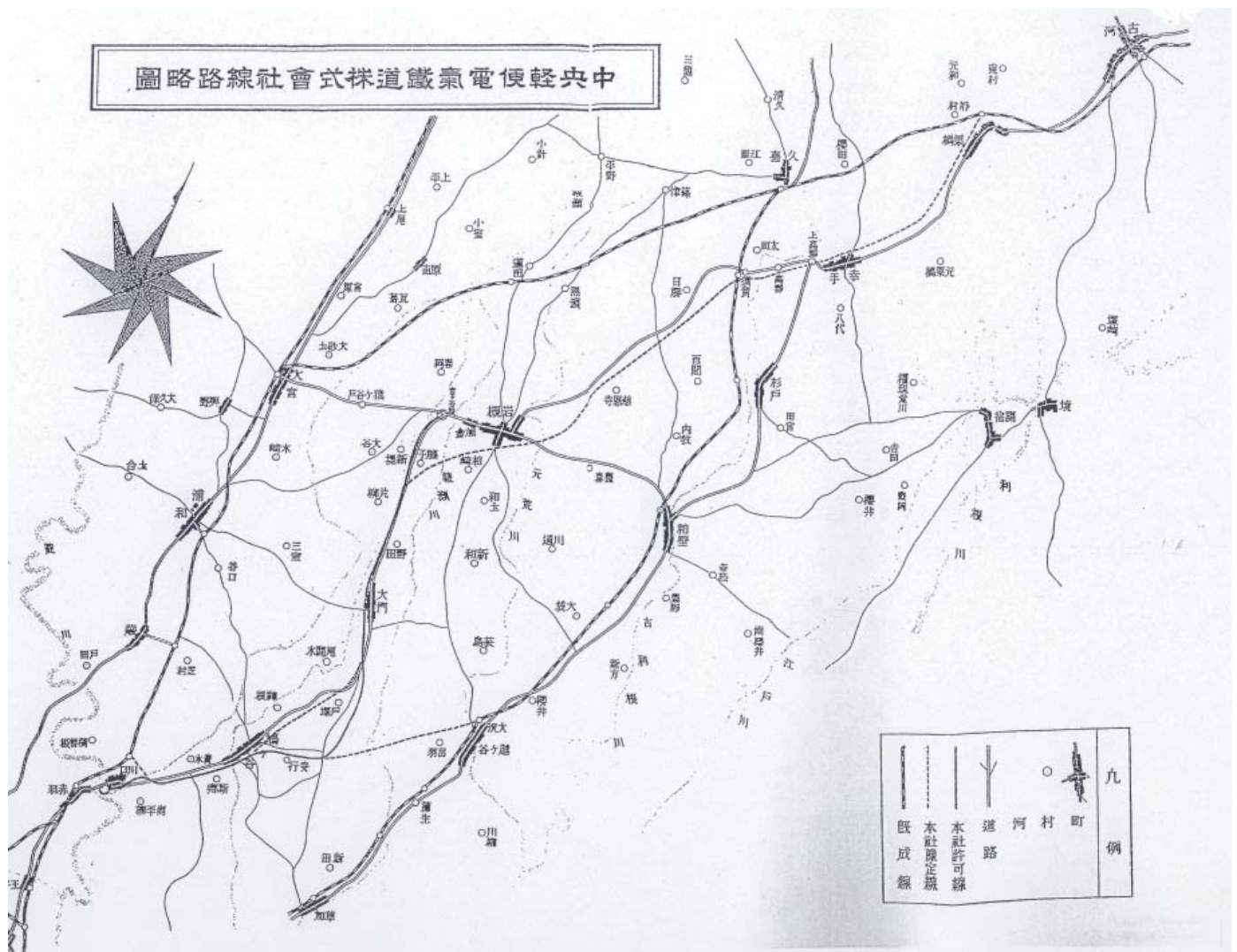
資料5 杉戸駅東口



資料6 杉戸駅西口



資料7 姫宮駅

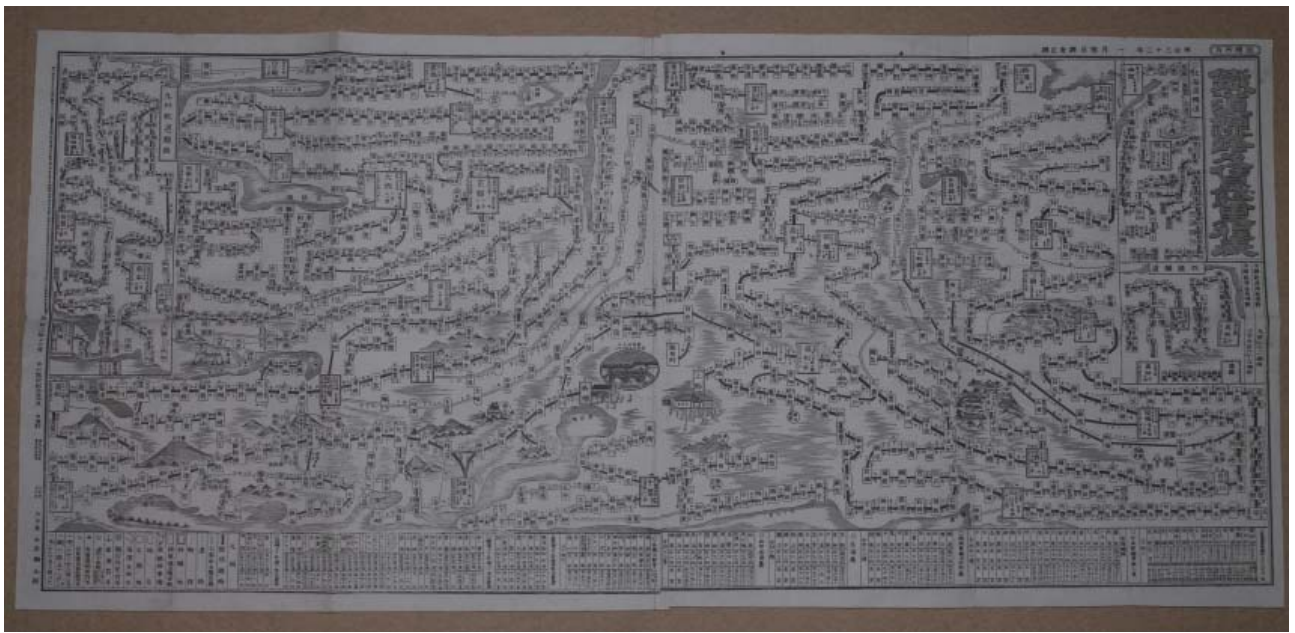


資料 9 下 水路図（武州鐵道の路線）

資料 8 上 中央輕便鐵道路線圖



[illegible]



資料 14 鉄道線路及賃銭里程表 明治 33 年



資料 15 鉄道線路及賃銭里程表 アップ 明治 33 年